

逗子:地名について『逗子市史』に、辻子(逗子)と辻の意味を分け、辻子は通りぬけることができる路で、辻は二つの道が交差するところと説明し、「当市の“ずし”はまさしく、古東海道沿いの鎌倉から三浦半島へ通り抜けできる所であり、分岐点という意味にかなう、日本歴史上で重要な地名ということになる。」と書かれている。

【浪子不動】 (白滝山高養寺 真言宗)

廬花の小説「不如帰」の舞台となった披露山山麓に建つお堂。本来、厄除不動として信仰、漁師の守り神。現建物は葉山の慶増院から移築。本堂完成に援助した高橋是清と犬養毅の姓から高養寺とした。

不如帰の碑:堂前の海に昭和8年建立の「碑」が建つ。碑文字は兄蘇峰が書き、碑石は小坪の海に沈んでいた江戸城築城の鍋島石。礎石の下には、「不如帰」執筆の際の筆と硯を納めたという。

【披露山公園】 (かながわの景勝50選) 昭和33年開園

標高92.7mの披露山の山頂にあり、その名前の由来は、「鎌倉時代将軍に献上物を披露した所、あるいは献上物を披露する役人が住んでいた所」から。第二次世界大戦時には「披露山防空砲台」が置かれた。高射砲が取り外された直径12mの3個の大穴は展望台、花壇、猿舎として再利用。

古東海道:公園駐車場の片隅に尾崎行雄の記念碑が建っている。裏手に下る七曲がりと呼ばれる小道が「古東海道」の一部と推定されている。

【光明寺】 (天昭山蓮華院 浄土宗関東大本山)

開基は執権北条経時。仁治元年(1240)佐助ヶ谷に創建した蓮華寺が前身。寛元元年(1243)、当地に移し寺号も光明寺と改まる。市内でも屈指の大寺院で伽藍は総門、山門、千手院、蓮乗院、大殿(本堂)、開山堂、鐘楼、客殿、庫裏、本坊、書院等からなる。文化財も「当麻曼荼羅縁起絵巻」(国宝、鎌倉国宝館に寄託)「十八羅漢及僧像」(国重文)等がある。

山門:二層五間、弘化4年(1847)に再建。関東一の偉容を誇る。「天照山」の扁額は後花園天皇の直筆といわれる。

本堂:17間四方、関東大震災後改築。本尊は阿弥陀如来。